

**第4回人手不足問題対策会議 議事要旨**  
(令和5年度 ひょうご経済・雇用戦略推進会議雇用分科会)

**I 日時** 令和5年12月25日(月) 10:00~11:00

**II 場所** 兵庫県庁第2号館5階 庁議室

**III 出席者**

構成員：9名(別紙1のとおり)

県：知事、産業労働部長 他

**IV 次第**

1 議事：人手不足問題に対する議論総括及び施策案整理 等

**V 主な内容**

1 開会

2 知事あいさつ

3 議事

(1) 意見交換

別紙2のとおり

## 出席者（構成員）

氏名	団体・役職等
構成員	
荒木 秀之	りそな総合研究所株式会社 主席研究員
伊藤 敦	株式会社水登社 総務室長
田 夔 真司	株式会社朝日工業 代表取締役
西村 総一郎	株式会社西村屋 代表取締役社長
服部 博明	株式会社みなと銀行 取締役会長 （（一社）神戸経済同友会 顧問）
福永 明	日本労働組合総連合会兵庫県連合会 会長
本丸 勝也	兵庫ベンダ工業株式会社取締役事業本部長
巳波 弘佳	関西学院大学 副学長兼情報化推進機構長
横山 由紀子	兵庫県立大学 国際商経学部 教授

(敬称略 五十音順)

## 議事要旨（意見交換）

## ○ A委員

- ・全体的には非常によくまとまったものになっている。こういった議論は継続的に実施するべき。次年度以降も続けてほしい。
- ・理工系人材を育成する科学塾について、兵庫県はものづくりの県なので是非、次年度以降も、中長期的に継続して取り組んでいただきたい。
- ・奨学金返済について、アンケート見ると金額も大きく返済期間も長くなっている。これについては、是非拡充をしていただきたい。
- ・知事からベトナムのお話があったが、今後、ベトナムに限らず、他の東南アジアの地域、インド等も含め、拡充していただきたい。
- ・今回の項目ではないが、兵庫県立大学の無償化は非常にいいことだと思っている。無償化と合わせて、県内就職率を上げる取組も考えてほしい。例えば現状の30%弱から50%を目指すなど、そういったKPIも検討してはどうか。
- ・当社でも、神戸大、県立大、関学大、甲南大の4大学に通う経済的に非常に恵まれない3回生・4回生の学生に対し、無償で奨学金を出している。次年度からは積極的に兵庫県に就職する学生を対象とする内容で検討ができないか考えている。県立大学の無償化もこのように県内就職率を上げる取組に結びつけられると良いのではないかと感じる。

## ○ B委員

- ・バランスよく、かつポイントを押さえてまとめられている印象を受ける。
- ・今後、方針を決めて次年度以降で事業実施していくことになると思うが、実際にやってみて、おそらく失敗も出てくると思う。トライアンドエラーを繰り返し、時には柔軟性を持ちながら推進してほしいと思う。
- ・次年度以降の課題として、人材の質の低下も現場では課題だと認識している。実際に人口が減少するということに加え、人材の質の低下による生産性の低下が懸念される中、少し先回りしてカバーすることも考えていかなければならないと感じる。

## ○ C委員

- ・かなり網羅されているという印象を受ける。
- ・既に実施済みの内容も多く、非常に良い取組と思うが、県民の立場から言うと、実はあまり知られていないのが実情。せつかくの取組がもう少しわかりやすく可視化されれば良いと感じる。
- ・企業でもKPI・KGIといったような目標値を設定している。この施策にも目標値は必要ではないか。当然、中には失敗もあるかと思うが、何らかの目標がないと、漫然と施策を実施してしまうのではないかと懸念する。
- ・私自身も大学無償化は賛成。一方、大学全入時代と言われており、皆が大学に進学する

ことになる。中小のものづくり企業の採用はさらに困難になる。当然、企業としても努力しなければいけないと考えているが、大学進学後、どのように迎え入れるか、もしくは帰ってきてもらう方法を考えていくかということも考えていきたい。

- ・ベトナムで知事がトッププロモーションされ、新たな認証制度を検討されているのは企業にとって非常に嬉しいこと。仲介に入っただけの企業や送り出し機関、外国人労働者に認められている関係性ができるのはありがたい。
- ・ものづくり人材の確保という面では今後、ベトナムも以外にも、インドネシアも視野に入れている。理工系人材では、インド、アフリカ等も視野に入れながら検討を進めている。時間が許せば、色々な国へ行っていただきトッププロモーションしていただきたい。

## ○ D委員

- ・先日、近畿運輸局が旗を振ってくれて、我々の業界と大阪観光大学の留学生向けのマッチングが実施された。今回の施策にも盛り込まれているが、早い段階で、兵庫県内でもこういったものができればと期待をしている。
- ・万博には期待もある一方で、人材不足が懸念される。先般、報道で大阪のあるホテルが例年の3倍程度の求人をするという記事もあった。我々も、何とか今回の施策を有効に活用し、求人の獲得と定着につなげたい。
- ・但馬地域の高卒者は約1,300人程度で、うち約1,100人が進学と就職で但馬を出ていくようだ。これは地域特有のことで、難しいかもしれないが、但馬に定着するようなことも可能であれば、検討いただきたい。

## ○ E委員

- ・多くの価値観が盛り込まれており、網羅的にまとめられている印象。
- ・理工系学生と県内企業との交流機会の更なる創出は、企業と大学、高専、高校との連携なども意識して盛り込まれたものと認識しているが、やはり認知度が低いことが課題。本学の学生も、県内企業にどのようなものがあるか知らない。
- ・企業のことを知らないならば説明会をすれば良い、となりがちだが、説明会で聞いただけでは、表面的な知識でとどまってしまう。インターンシップ等を活用し、企業の中で働く中で、企業への理解が深まれば、目を向ける可能性も高くなるのではないかな。
- ・ものづくり支援センターとの連携やインターンシップなどを活用し、大学生が兵庫県内の企業と一緒に何か問題を解決するというような、そういう仕掛けを具体的に考えていくと、伴走支援にも繋がるし、学生の県内就職にも繋がるのではないかな。
- ・大学がインターンシップを実施するにあつての悩みは、受け入れ企業が少なく、なかなかそれを見つけるのも大変だということ。企業側としても、どういったチャンネルでつなげていけば良いかわからず、お互い噛み合っていないところもあるのではないかな。
- ・県の方で実施しているインターンシップに、企業と大学がもう少し連携するような要素を加えて拡充させることはできないかな。

## ○ F 委員

- ・非常によくできていると感じる。人手不足という横串の中でこれだけのものが網羅されているというのは非常に価値があると思う。
- ・外国人や奨学金については、非常に前に出ている印象を受ける中、生産性向上、省人化については、伴走支援ということで若干体重が後ろに残っていると感じる。今後、人口減少と、新しく人を雇うことを考えたときに、差し引きがどう考えても合わず、中長期で見ると減少のほうははるかに大きい。
- ・経産省でロボット導入支援が始まると聞いているので、県もプラスアルファで支援を出すというところがあれば、企業もより注目し、導入が進むと思うので、検討いただきたい。

## ○ G 委員

- ・最近の外国人実習生は、全然日本語ができないまま来日してくるケースが多々あり、質の低下を感じている。会社としても支援するが、会社単体では限界がある。知事がベトナムや色々な国でトップセールスをする中で、優秀でガッツのある方を連れてこられるようにお願いしたい。
- ・当社にも実習生が来てかなり経つが、初めの頃の方は、日本語にしても覚えていこうという姿勢がとても感じられた。一方、最近来た方は、言語も仕事もベトナムの先輩方に頼りきりという印象が強い。そういった中でも、給料は日本人と同等に支払うとなると、パフォーマンスの高い方のモチベーション低下に繋がるのではないかと懸念している。

## ○ H 委員

- ・基本的に示されている内容には賛成。「働きやすい職場づくり」の労使団体及び労働関係機関との綿密な連携については、引き続き継続していただきたい。
- ・雇用の創出という観点からは少しずれるが、企業は人材不足を補うための省力化や企業の魅力向上をするために、原資が必要。今、中小企業の製造業の皆さんが苦勞されているのは、どう原資を確保するかということ。その点で、いわゆる適正な取引であるとか、価格転嫁が公正にされるか、ということも議論されるべきではないか。
- ・外国人雇用に関する企業認証制度の創設も基本的には賛成。ただし、企業サイドとしてのチェックリストで認証、見える化だけではなく、働く側としての視点も大事にしてほしい。
- ・働く側の視点として、相談窓口等が挙げられるが、県で窓口を設置しにくいのであれば、例えば労働局は既に日本語を入れて 14 ヶ国語で相談できるような体制持っているのだから、労働局との連携強化を検討するというようなことも必要ではないか。